

# 創建

そうこん

巻頭言:浅里和茂 ・1

東日本大震災・原子力災害伝承館を設計して:渡部和生 ・2~5

令和4年度 卒業研究テーマ ・6~7

令和2年度 就職状況報告 ・8~9

新任の紹介:岡野春彦/藤倉裕介/松田知子 ・10

学術論文/学会発表/教室ニュース ・11

令和3年度 建築学教室教職員名簿 ・12

2021・7・9 VOL. 56 NO. 1 (通巻177号)

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

かなり季節外れではあるけれど、XmasはChristmasの略号とみんな知っています。英語圏ではMerry Christmasと書くべきですし、最近では宗教色のないHappy Holidaysが増えています。この略し方はアメリカのデパートがセール用のPOPあたりに使ったのが流行の始まりらしいです。もう一つ、Xferと書いてTransferとなります。こちらはネット用語だったり、一時期スペースシャトルを表したりと、省略好きの技術屋さんが広めた略です。ほかにもCross ReferenceがXrefとなってプログラミングでライブラリ参照のエラーチェックにも使われています。いろいろな語句に変身してしまう、まさに不思議な謎の文字Xです。

最近ではDXなるものが各所に顔を出しています。今度はデジタルトランスフォーメーション(Digital Transformation)でなぜに突然大文字になってしまったのかも謎です。経済産業省によれば『企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること』と定義されています。これまでの「ICTを利用して効率化しましょう」というところから、今回はもう一歩踏み込んで「仕事の内容も考え直してみましょう」を目指しているようです。このところ首都圏でリモートワークが推奨されていることもこのDXに拍車をかけています。とりあえずICTを絡ませておけばとか、印鑑廃止のためにとか、役所の安易な思いつきに振り回されるのだけは勘弁して欲しいところです。Society 5.0なんてのも謎を深めています。

昨年からはほとんどの大学で遠隔授業が

行われてきたこともあって、文部科学省も教育DXの旗を振り始めています。小中学校でも一人一台の端末を持たせようとするGIGAスクール構想もその一つですが、端末を配布さえすればOKではないです。その割には文部科学省も授業担当者による出欠管理だったり、課題による毎回の理解度チェックだったり、厳しい遠隔授業ガイドラインを大学に示して、これにも振り回された一年間でした。

遠隔授業を実施してみても人間のインターフェースのスピードとPCのスピードとは厳然たる格差が存在する気がしています。オンデマンド授業ではあらかじめ録画しておいたビデオを自分の好みのスピードで再生する

## 謎の文字

教授 浅里和茂

だけです。その差は無いはずですが、理解するという側面ではスピードが同期していたとは言えないようです。ここでは人間の五感のうち視覚と聴覚が中心ですが、ごまかしが効かないのは聴覚の方であり、音声のクリアなビデオの評判が良いようです。けれども人間の記憶は、それだけに頼っている訳ではないはず。例えば実験の時、コンクリートは意外と早く固まってしまうと触感として感じたり、鉄筋の強度を破断時の大きな音で驚いたことと同時に記憶したりしなかったでしょうか。講義の内容を学食メニューの匂いと同時に覚えていることはさすがにないでしょうけれど、先生の言い間違いと一緒に記憶することはありそうです。対面授業というのは、教員と学生のインターフェースを同期さ

せる意義もあるかもしれません。

DXには企業の競争力向上や業務の選別などが含まれますが、その後には従業員の選別に進んでしまうことも容易に想像できます。リモートワークなどのデジタルに適應できることはもちろん、自分で進捗管理ができるか、自律的に物事を進めていくことができるかなどが問われてきます。ただし、建築業界の場合、現場での比重が大きいですからリモートオフィスの比重は増えないと思えますが、否応なく施工管理でもデジタル化は進んでいきます。

飛行機事故をきっかけに研究室から持ち出された謎の新型ウィルスが蔓延して人類が死滅してしまう。1964年に発表された小松左京のSF「復活の日」は、インフルエンザウィルスを扱っていた内容もあり昨年話題になりました。生存者は南極大陸だけ、無人となったアラスカに発生した巨大地震により核ミサイルが自動発射され、世界中で起爆した核爆弾の中性子線により新型ウィルスが無効化してしまう。なんと皮肉な結末ですが要所をしっかりと科学考証されたこの作品は現代でも十分に通用します。そしてこの作品の巨大地震の背景であるプレートテクトニクスの取材から「日本沈没」が1973年に出版されてベストセラーとなりました。何度も映像化されていますが今秋にもTVドラマになる予定だそうで、どんな最新の地震メカニズムが紹介されるのか楽しみです。

COVID-19による外出制限や感染防止のためにライブコンサートも配信されるようになったおかげで、昨年秋から有名どころを3回も観ることができました。今までなら到底チケットが手に入らないライブでも自宅で珈琲やビールを飲みながら楽しめました。世の中、悪いことばかりではありません。

## 東日本大震災・原子力災害伝承館を設計して

特任教授 | 渡部和生

### 設計の経緯

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震、津波、原子力災害という未曾有の複合災害を福島は経験しました。福島県は、その貴重な資料の収集・保存・研究・研修・展示を主目的とする「東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設(以下、東日本大震災・原子力災害伝承館)」の構想がつくられました。

事業の実施に先立って設計者を選定するプロポーザルコンペが行われました。第1次の書面審査では、建築の基本的な考え方をモデル図やダイアグラムを交えて提案します。第2次審査ではプレゼンテーションを行い、審査委員との質疑応答が行われました。この応募者と審査委員とのやりとりは、公開で行われましたので、とても緊張感が高まりました。運よく私たちの案が選ばれましたが、展示される内容を考えると、改めて建築家としての責任の重さを痛感させられました。

設計が始まると、国の予算であること、県立の建物ということ、町の土地に建設すること、それぞれの立場の部局の意見を伺いながら進めることになりました。その調整に多くの時間を費やしなが、なんとか設計を終えることができました。建築家の仕事は、個人の方で進められるものではありません。意匠設計チーム、構造設計チーム、設備・環境設計チームなど、総合的なチームワークで進められます。その他、発注者側の設計チームや展示コンサルタントとの意見調整がとても大変です。何とか完成したいという切ない希望を捨てず、設計チームの意志が萎えることがないように目配りするのも建築家の大切な仕事です。

建築の設計は、デスクワークばかりと思われがちですが、実際はそうでもありません。フィールドワークや現場監理というものが、定期的に建設現場に通います。施工会社との打ち合わせや、品質管理・デザインの再確認・土木事業との最終調整など、内容は多岐に渡ります。今回の建設現場はインフラさえ整備がされておらず、現地に通うことすら困難な時期もありました。自分の乗っている車が2度ほど猪に接近してしまい、このようなことは、経験したことがありませんでした。紆余曲折を経て、どうにか建物が完成したのも関係者の総力によるものです。

### 建物の特徴

この辺りの敷地は、福島の人たちが海水浴に訪れるなどかつては日常的に慣れ親しんだ場所です。中通りの郡山に生まれ育った私にとっても、夏休みに両親に連れられて浜通りの海水浴場に行くのは大きな喜びでした。現在は、土木事業として防潮堤や防災林の工事が行われ地盤の嵩上げが施され、徐々に海岸線が見えなくなり、少し寂しさを感じました。そうした状況の中で、設計や工事が徐々に進んでいきました。

建物の特徴は、南北に長く、西側に阿武隈山地、東側に太平洋が広がり福島の方々が親しんできた風景が見られます。海とそれに続く復興祈念公園が近いので、東側は弧を描く両翼を広げたやわらかい表情にしました。この湾曲するエントラスホールと2階の展示ギャラリーは海との親密な関係が強調されています。

展示のプログラムは、円形ホールのプロローグシアターの映像から始まり、スパイラルスロープで2階の展示室に上がります。スロープの途中には小さなグループで語り合うスペースが設けられ、大・小様々な集団で、語り部の方々の肉声のお話を聞くことができます。1階から3階の展望室まで各層に「海のテラス」が雛壇状に展開しています。語り部の方々が様々な方向を指さし、潮風を感じながら、子供たちに説明できます。この災害の教訓は「万が一と言われることでも起こりうる」ことです。教訓を後世に伝える意





南側エントランス外観

味を含めて、現物資料の収蔵庫・展示室は2階に計画し、電源設備は屋上に配置して、来館者への原子力災害への説明と建物の構成に関連性を持たせました。外観は、現代建築としての伸びやかで包み込むような構成の中に、海の家のような親しみやすさをイメージした、羽目板張りの外装を施しました。

この建物は、浜通り地域の産業回復を目指す、国家プロジェクト「福島イノベーション・コースト構想」の情報発信拠点としての役割も担っております。

おわりに

東日本大震災から10年が経過しましたがこの建物が完成する以前から、工学部の他の先生方の研究・地域支援活動や学生の皆さんのボランティア活動が展開されてきました。私も設計活動を通じて、このような機会に恵まれたことは、光栄なことですし、福島の復興が更に進展することを願っております。

渡部和生受賞歴

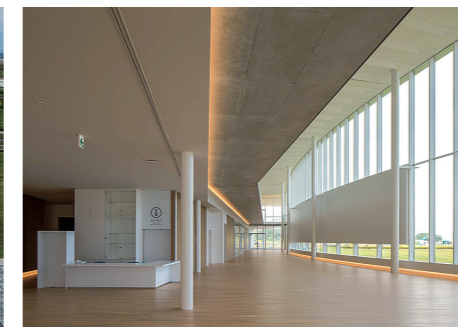
- 1997年 太田総合病院附属老人保健施設桔梗/日本建築家協会 JIA 新人賞 受賞
- 2004年 福島県立郡山養護学校/ 2004年日本建築学会賞(作品) 受賞
- 2004年 太田看護専門学校/ 2004年日本建築士会連合会賞 受賞
- 2013年 長岡市立東中学校/ 2013年日本建築学会作品選集
- 2017年 東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設 公募型プロポーザル 入選



円形ホール(プロlogueシアター・語り部ホール)



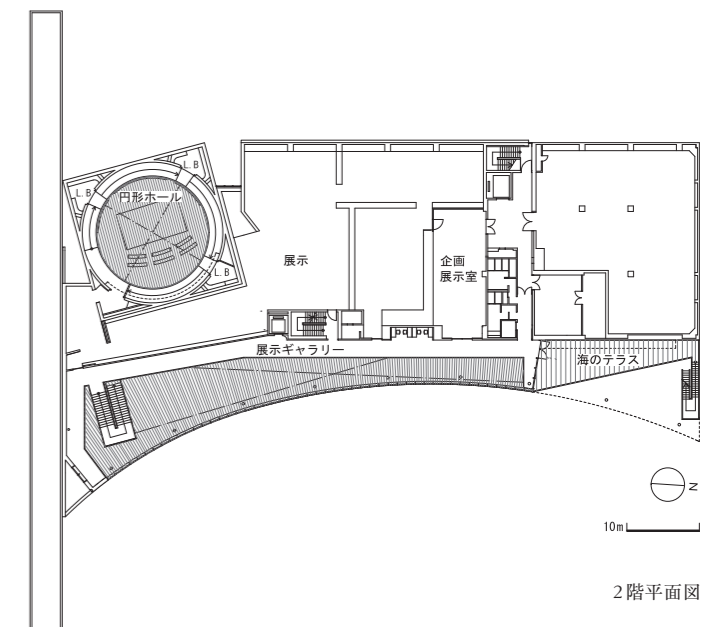
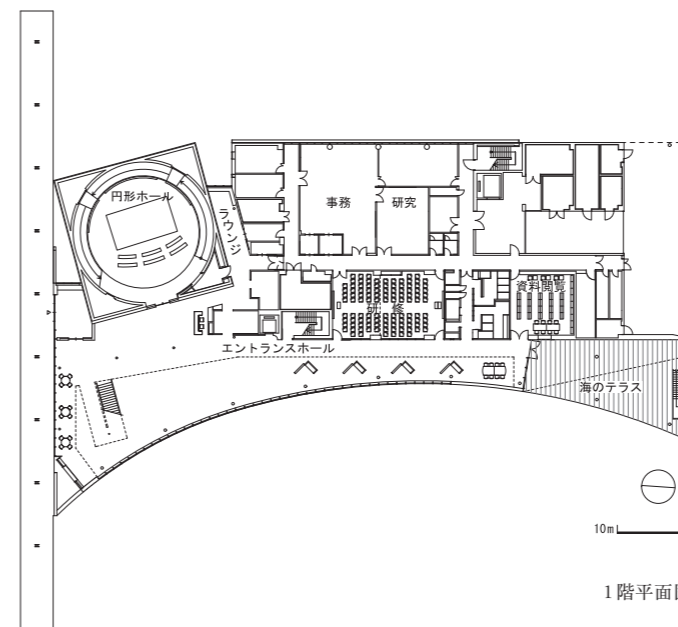
南側俯瞰



エントランスホールから吹抜けを見る

建築概要

主要用途	博物館
建主	福島県
敷地面積	28,178.48 m <sup>2</sup>
建築面積	3,536.18 m <sup>2</sup>
延床面積	5,256.56 m <sup>2</sup>
階数	地上3階
構造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
設計期間	2017年6月-2018年10月
施工期間	2019年1月-2020年6月



## 令和4年度 卒業研究テーマ

現在、建築学科には17の研究室があり、分野の違いから大きく区分すると、構造、材料・施工、環境・設備、建築計画、都市計画、歴史・意匠などの系に分類されます。各研究室は、それぞれの領域で専門的な研究・教育を行っています。

卒業に必要な科目の一つである卒業研究は、4年次生の期間に一年間を掛けて取り組みます。研究室に所属し教員や院生からアドバイを受けることで、専門的な研究を実施することができます。まずは、「どのような卒業研究をしたいのか」を念頭にして、研究室を選択することが必要です。

卒業研究は論文と設計のどちらかを選択することができます。但し、研究室の分野的な特徴から、論文もしくは設計のどちらかに限定している研究室もあります。各研究室で定めている選択肢は、研究室名に続く[ ]で表記しています。

<b>鋼構造デザイン研究室</b> 〔論文〕 <b>教授:</b> 浅里 和茂	<b>空間構造システム研究室</b> 〔論文〕 <b>准教授:</b> 野内 英治
1. 応答解析による鉄骨骨組の地震時挙動に関する研究 2. 高カボルト接合部の弾塑性挙動に関する実験的研究 3. 鋼構造部材・接合部のFEM解析による研究 4. 木質系建物の耐震性能に関する解析 5. 県内建物の耐震化の動向調査	1. 空間構造に関する研究 2. 各種構造の設計・解析に関する研究 3. 構造物の振動・耐震に関する研究 4. 構造解析ソフトウェアの開発 5. その他(要望に応ずる)
<b>コンピューテーション応用力学研究室</b> 〔論文〕 <b>教授:</b> ガン ブンタラ ステンリー	<b>構造解析研究室</b> 〔論文〕 <b>専任講師:</b> 日比野 巧
1. 自然現象や生物の行動的な考え方を利用した建築構造物の最適化に関する研究 2. 無重力状態で自己釣合い・自己展開できる建築構造物(テンセグリティー)の研究 3. 建物の各階にリアルタイムで地震時における震度階級を掲示する電子装置の開発 4. 建築分野における傾斜機能材料に関する実験と解析的研究 5. 平坦な紙から折り紙になる制作方法や、折り紙の形状から平坦な紙に山と谷になる線を算定する研究	1. 耐震補強効果の評価手法に関する研究 2. 既存建物の立体振動性状に関する研究 3. 建物の減衰評価に関する研究 4. 建物の構造解析モデルに関する研究 5. 液状化現象に関する実験
<b>振動システム研究室</b> 〔論文〕 <b>教授:</b> 千葉 正裕	<b>鉄筋コンクリート構造デザイン研究室</b> 〔論文〕 <b>専任講師:</b> 堀川 真之
1. 工学部構内にある教室棟の振動性状に関する研究 2. 郡山市域の地盤特性に関する研究 3. 建物の振動解析法に関する研究 4. 工学部構内にある情報研究棟及びその周辺地盤における地震動観測	1. 2021年福島県沖地震の被害分析 2. RC耐震壁を対象とした構造解析の問題点 3. RC骨組の地震応答解析に関する高度化 4. レンガ造建物の構造性能評価 5. JSCA 構造デザインコンペへの挑戦

## 材料・施工系

<b>鉄筋コンクリート(RC)構造・材料研究室</b> 〔論文〕 <b>教授:</b> サンジェイ パリーク	<b>建築材料学研究室</b> 〔論文〕 <b>准教授:</b> 齋藤 俊克
1. 自己治癒・自己修復機能を有するコンクリートの開発 2. ジオポリマー(セメント使用しない)コンクリートの開発 3. 宇宙建設に関する研究 4. SDG'sを中心とした建築材料による二酸化炭素の削減 5. 建築材料及び高強度コンクリートの防火・耐火性能とその改良について研究 6. インド住宅用の省エネ新構法や歴史的石造建造物調査・保存の研究	1. ポーラスコンクリートの静弾性係数推定法の確立 2. ポーラスコンクリートの強度及び耐久性の改善 3. 表面被覆材または断面修復材としてのポリマーセメントモルタルの性能評価 4. 自然環境下におけるコンクリート系材料の耐久性評価 5. 高耐久性塗料の性能評価 6. 産業副産物の建設材料としての有効利用

## 環境・設備系

<b>環境工学研究室</b> 〔論文〕 <b>教授:</b> 濱田 幸雄	<b>建築設備・防災研究室</b> 〔論文・設計〕 <b>教授:</b> 森山 修治
1. 高機能遮音木床の開発 2. 伝達関数法による垂直入射吸音率測定システムの開発 3. 遮音設計のための鉄道騒音の測定・評価に関する研究 4. 床衝撃音の評価方法に関する研究 5. 集合住宅の遮音性能水準に関する研究	1. 歴史的建造物の防災と保存に関する研究 2. 歴史的木造建造物群の防災に関する研究 3. 水害対策とキャンパス強靱化計画 4. 津波避難計画に関する研究 5. 病院や住宅の省エネルギーと災害時の生活継続計画の研究 6. 老人福祉施設等の火災安全計画および生活継続計画の研究 7. 古民家の居住快適性に関する研究

## 建築計画系

<b>建築計画研究室</b> 〔論文・設計〕 <b>教授:</b> 浦部 智義	<b>建築・地域計画研究室</b> 〔論文・設計〕 <b>専任講師:</b> 宮崎 渉
1. 文化・医療・教育など施設・空間に関する研究と計画 2. 農村舞台など地域資源の役割・活用に関する研究と計画 3. 構法も含めた環境デザイン建築に関する研究と計画 4. これからの建築・都市空間に関する研究と計画 5. これからの住まい・まちづくりに関する研究と計画	1. 温泉街のまちづくりに関する研究 2. 木質空間の印象評価に関する研究 3. 景観まちづくりに関する研究 4. 沿岸地域計画に関する研究
<b>住環境計画研究室</b> 〔論文・設計〕 <b>専任講師:</b> 市岡 綾子	<b>医療・福祉建築デザイン研究室</b> 〔論文・設計〕 <b>専任講師:</b> 山田 義文
1. 居住空間、住環境、子育て環境に関する研究 2. 地域におけるまち資源の活用に関する研究 3. 景観まちづくり・景観学習に関する実践的研究 4. 子どもを中心とした環境行動に関する研究 5. 地域住民との協働まちづくりによる居場所づくり 6. 福島県内の祭り屋台に関する研究	1. 高齢者や重度肢体不自由児者の居場所づくり 2. 高齢者向け住宅のハウスアダプテーション 3. 地域の医療・福祉施設などにおける災害時対応 4. 改正バリアフリー法施行後の小中学校の環境整備 5. 古民家等、地域資源の福祉転用による地域活性化 6. シェアする居住形態のインクルーシブデザイン 7. 案内サインなどのカラーユニバーサルデザイン

## 都市計画系

<b>都市計画研究室</b> 〔論文・設計〕 <b>教授:</b> 廣田 篤彦
1. 台風19号における避難行動に関する研究 2. 空き家の実態と対応に関する研究 3. 地方都市における道の駅の運用に関する研究 4. コロナ禍における外出行動に関する研究 5. オリンピックのホストタウンに関する研究

## 歴史・意匠系

<b>建築歴史意匠研究室</b> 〔論文・設計〕 <b>教授:</b> 速水 清孝/助教:高橋 岳志	<b>建築史研究室</b> 〔論文・設計〕 <b>専任講師:</b> 山岸 吉弘
1. 建築・都市の歴史に関する研究 2. 建築・町並みの保存と活用に関する研究 3. 建築技術の歴史に関する研究 4. 建築家の作家論に関する研究 5. 建築技術者の職能と法制に関する研究 6. 木質建築の生産システムに関する研究 7. 画像解析技術を用いた集落・外空間の構造分析に関する基礎的研究	建築史研究室では、各自で自由に卒研テーマを設定します。「建築史」という観点からの研究であれば、論文だけでなく設計を選択することもできます。  これまでに取り組まれた主なテーマには、「社寺、民家、城郭、まちなみ、都市、宿場町、職人」などがあります。今後は積極的に歴史・文化とデザインの研究を実施する予定です。

# 令和2年度 就職状況報告

令和2年度の求人件数は1,213社と昨年度から約300社上回り、求人件数の面ではコロナ禍の影響はないように見受けられます。図1には、工学部の求人企業数の本社所在地と就職者数の都道府県別分布を示しています。東北大震災から10年が経ち、復興特需が落ち着いたことで、宮城県、福島県の求人数は減少傾向にあります。求人企業の内、550社(45.3%)は東京都の企業で最も多く、関東の企業が216社(17.8%)、東北の企業が148社(12.2%)となりました[表1]。

一方、就職者数を見ると東北の企業へは79人(38.9%)、東京都の企業へは59人(29.1%)の学生が就職し、7年ぶりに東北の企業への就職が最も多くなりました。これは、今年度就職した学生の過半が東北出身者であり、特に福島県出身者の就職者2/3以上が地元に残って仕事をすることを決めたことに起因しています。企業別では、例年と同じく建設・エンジニアリングの業種が多く、75名(30.6%)の学生が就職しました[表2]。続いて、住宅・不動産の業種に50名(20.4%)の学生が就職し、昨年度の同じ傾向が見られます。

推薦応募を利用して就職した学生は12名と昨年(3)の3倍になりました[表2]。より良い就職のために積極的に推薦応募の求人枠を活用してください。

表1:地域別求人企業数・就職者数

	求人企業数(社)	(%)	就職者数(人)	(%)
東京都	550	45.3	59	29.1
関東	216	17.8	31	15.3
北海道	11	0.9	2	1.0
東北	148	12.2	79	38.9
甲信越	39	3.2	11	5.4
東海	83	6.8	11	5.4
北陸	16	1.3	1	0.5
近畿	99	8.2	7	3.4
中国	30	2.5	1	0.5
四国	11	0.9	0	0.0
九州	10	0.8	0	0.0
沖縄県	0	0.0	0	0.0
海外	0	0.0	1	0.5
計	1213		203	

0(0) 7	0(0) 2	0(0) 4	9(7) 32
福岡	岡山	福井	新潟
0(0) 2	1(0) 27	1(1) 5	2(1) 7
佐賀	広島	石川	長野
0(0) 1	0(0) 1	0(0) 7	甲信越
熊本	島根	富山	
九州	中国	北陸	

工学部求人企業数  
 □:0  
 ■:1~9  
 ■:10~49  
 ■:50~99  
 ■:100~

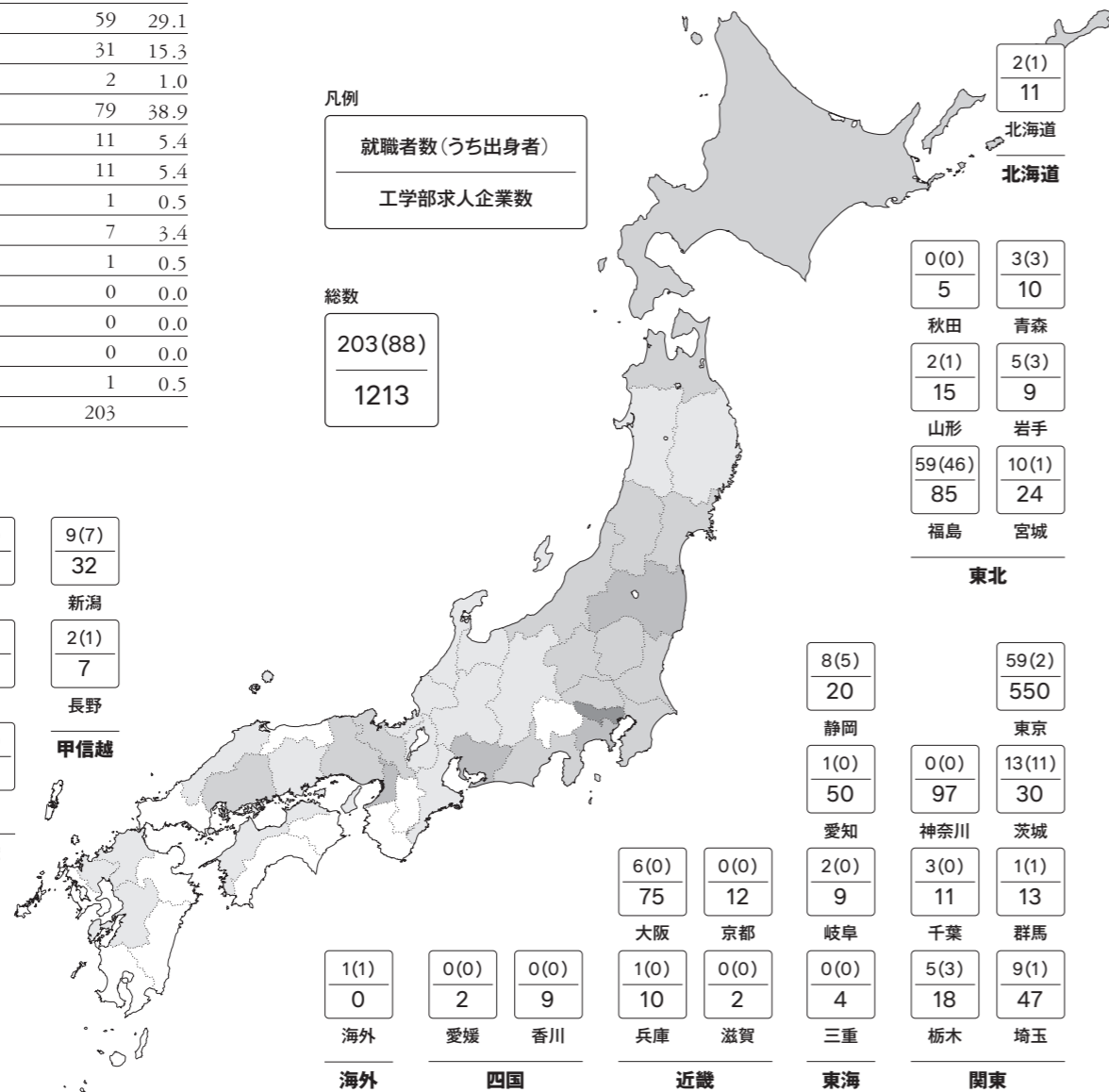


図1:都道府県別の工学部建築学科求人企業数と就職者数

表2:企業業種別にみた就職者数と応募区分

就職先業種	就職者数				推薦応募	
	男子		女子		全体	女子
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(人)
A 建設・エンジニアリング	64	33.7	11	20.0	75	30.6
B 建築設備	10	5.3	2	3.6	12	4.9
C 住宅・不動産	38	20.0	12	21.8	50	20.4
D 設計事務所・コンサルタント	19	10.0	6	10.9	25	10.2
E 製造業・建築関連	7	3.7	6	10.9	13	5.3
F 公務員・団体職員	12	6.3	3	5.5	15	6.1
G その他	22	11.6	11	20.0	33	13.5
H 進学	18	9.5	4	7.3	22	9.0
就職・進学者数	190		55		245	

図2-2, 2-3は就職先企業の規模、上場を示しています。規模区分は中小企業が定める定義を用いています。約3割の学生が大企業、上場企業を選択しました。企業を選択する上では、企業を知ることが大切です。コロナ禍で活動が限られていると思いますが、インターネット上の情報だけでなく、インターンシップに参加するなど自らの体験から得られる情報、卒業生からの情報も活用しましょう。

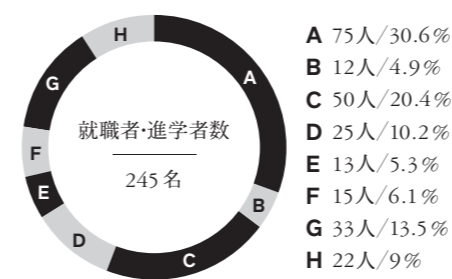


図2-1:進路先分布

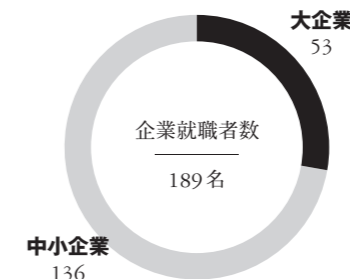


図2-2:企業模別就職分布

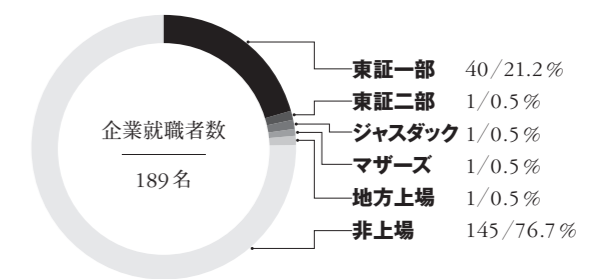


図2-3:上場区分

## 【主な就職先】

### 建設・エンジニアリング

- クレハ錦建設株式会社
- 陰山建設株式会社
- 株式会社安藤・間
- 株式会社熊谷組
- 戸田建設株式会社
- 荒牧建設株式会社
- 佐藤工業株式会社
- 松井建設株式会社
- 常磐開発株式会社
- 清水建設株式会社
- 西松建設株式会社
- 大成建設株式会社
- 東急建設株式会社
- 福浜大一建設株式会社

### 建築設備

- 株式会社ユアテック
- 株式会社長大
- 株式会社内藤工業所
- 株式会社大気社

### 住宅・不動産

- 一建設株式会社
- 株式会社オノヤ
- 株式会社一条工務店
- 株式会社石井工務店
- 大和ハウス工業株式会社
- 日本住宅株式会社
- 株式会社タカラレーベン東北
- 株式会社大樹不動産販売
- 株式会社長谷工コーポレーション
- 大東建託株式会社

### 設計事務所・コンサルタント

- エーユーエム構造設計株式会社
- 株式会社フクタ設計
- 株式会社久慈設計
- 株式会社坂田涼太郎構造設計事務所
- 株式会社三上建築事務所
- 株式会社邑建築事務所
- 株式会社エアコーポレーション

### 製造業・建築関連

- 株式会社橋本店
- 三晃金属工業株式会社
- 三菱マテリアル株式会社
- 東日本旅客鉄道株式会社
- 藤寿産業株式会社
- 美和ロック株式会社
- 株式会社総合資格
- 一般財団法人ふくしま建築住宅センター

### 公務員・団体職員

- 茨城県
- 新潟県
- 青森県
- いわき市
- 喜多方市
- 札幌市
- 那珂市
- 白河市
- 浜松市

- 福島市
- 米沢市
- 国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構
- 東京電力ホールディングス株式会社
- 日本原燃株式会社

### 【進学】

- 日本大学大学院 工学研究科
- 東京大学大学院 工学系研究科
- 東北大学大学院 工学研究科
- 千葉大学大学院 融合理工学府
- 新潟大学大学院 自然科学研究科
- 千葉工業大学大学院 創造工学研究科

## 新任の紹介



非常勤講師：  
**岡野 春彦**

担当課目：  
建築施工I

今年度より非常勤講師として、施工Iを担当いたします岡野です。私は日本大学理工学部建築学科卒業後、建設会社に入社し、以来40年間北海道と東北の施工の現場に携わってまいりました。40年前は書類・図面は手書きで作成し、仕事の伝達方法は対面か無線機・固定電話でしたが、その後IT化が進み工事管理者の仕事は飛躍的に変わり、業務の効率化と生産性の向上が図られました。一方で、最前線の建築現場は相変わらず人手に頼る「ものづくり」の世界で大きな変化はありませんでした。

しかし、ここ数年で施工現場もBIM活用やロボット化・自動化が急速に進み大きく変わりつつあります。また建設産業の国内需要も頭打ちで、全産業における建設業のGDPの割合も年々減少傾向にあり、すでに建設の仕事は海外や宇宙に視野が広がってます。そんな建設の仕事の変革期に学生の皆さんにどのように建築施工の仕事を紹介するかが悩ましいところです。将来の進路を決める時期でもある学生の皆様に何とか魅力的な「ものづくり」の施工の仕事を紹介しなければなりません。

私自身の経験した施工の仕事

と、教科書に記載された施工の内容をうまく融合させながら分かり易く説明し、時には教科書の内容から離れ、数年先・20年先の将来の建設業のあり方を模索しながら楽しい講義を進めていきたいと思

います。 施工現場の仕事はベテランですが、教壇に立ったことはないビギナーですので、私も初心に帰り、自分の現場マンとしての人生を振り返りながら改めて学生の皆さんと一緒に建築施工に向き合ってみようと思います。どうぞよろしく願

います。



非常勤講師：  
**藤倉 裕介**

担当課目：  
建築材料実験

今年度4月より「建築材料実験」の非常勤講師を担当させて頂きます藤倉裕介(ふじくらゆうすけ)と申します。どうぞ、よろしく願

います。 今年度4月より「建築材料実験」の非常勤講師を担当させて頂きます藤倉裕介(ふじくらゆうすけ)と申します。どうぞ、よろしく願

います。 今年度4月より「建築材料実験」の非常勤講師を担当させて頂きます藤倉裕介(ふじくらゆうすけ)と申します。どうぞ、よろしく願

います。 今年度4月より「建築材料実験」の非常勤講師を担当させて頂きます藤倉裕介(ふじくらゆうすけ)と申します。どうぞ、よろしく願



非常勤講師：  
**松田 知子**

担当課目：  
建築設計演習IV

今年度から非常勤講師として、後期 建築設計演習IVを担当します松田知子です。現在、組織設計事務所の総合設計室に所属し、統括として建物の設計監理に携わっています。大学卒業後に入所してから意匠設計担当として、特に子どもや高齢者・障がい者が利用する施設を多く設計し、今は特別支援学校やインタースクール等の新しいこども施設の設計と建設マネジメントを行っています。私の祖父母は福島県の出身で、母は郡山に住んでいたこともあったため、日本大学工学部キャンパスとの地縁を感じております。

設計者としては、人々に寄り添う建築・利用者にとって最も良い建築とは何かと考え、その土地に合った形で実現できることを目指してきました。例えば学校の設計では、生徒だけではなく先生や地域の方も利用者であり、良い建物とは使い勝手が良いことだけではなく地球環境にも良い建物が求められ、これらを形にするため、鉛筆やペン・CAD・模型等を使って幾つもの案を作ります。試行錯誤の過程からその場所と時代に最もふさわしい建物の姿が見えると、幾つかの種類の図面に表現し、経済性や安全性等を評価しながら時間を掛けて設計をまとめ、工事中も建築主や施工者とはかなりの回数で話し

合いながら進めていきます。完成した建物の中を喜んで走り回る子ども達の姿を見ると、それまでの苦勞が吹き飛び、設計の仕事を続けて良かったと日々感じております。

またコロナ禍で価値観が変わりつつある中、建物が目指す方向や姿も代わっていくことが予想され、設計を通してこれからの建築について問いかけていきたいと考えています。

後期の建築設計演習IVの授業ではエスキースの演習を通して、人々が喜んで永く使い続けていく建物をどうやって設計していくか、そして設計の楽しさを皆さんに知ってもらいたいと考えております。どうぞよろしく願

## 学術論文 / 学会発表 / 教室ニュース

### 学術論文

- 武田昌也、齋藤俊克、出村克宣、「ポーラスコンクリートの静弾性係数推定式における粗骨材岩種の係数およびシリカフェームの混和材係数の検討」、セメント・コンクリート論文集、Vol.74、pp.139-146、March 2021.
- 岡田明也、齋藤俊克、出村克宣、掛川 勝、「異なる温度環境下で貯蔵した低固形分を有するセメント混和用樹脂エマルジョンの物性およびそれを用いたポリマーセメントモルタルの強さ性状」、セメント・コンクリート論文集、Vol.74、pp.412-419、March 2021.

### 第75回セメント技術大会 | 日時:令和3年5月26-28日 | 場所:オンライン

- ポリマーセメントモルタル被覆コンクリートにおける接着強さ性状および中性化抵抗性に及ぼす吸水調整材の塗布量の影響  
○田中拓弥、齋藤俊克、出村克宣、掛川 勝

### 2021年度 第84回日本建築学会東北支部研究報告会 | 日時:令和3年6月19日 | 場所:オンライン

- 道の駅の運営に関する研究  
○戸村優、佐藤辰矢、山際啓太、廣田篤彦
- 郡山市内におけるサービス付き高齢者向け住宅に関する研究 その1 入居者の運動量変動に着目した居住環境移行に伴う評価  
○王健嬌、山田義文
- 福島県の歴史的建造物の修理に携わる技術者の移動について  
○守岡優希・速水清孝・高橋岳志
- 被覆したポリマーセメントモルタルの塗布厚さがコンクリートの中性化抑制効果に及ぼす影響  
○田中拓弥、齋藤俊克、出村克宣、掛川 勝

### 学会発表

- 廣田篤彦教授は、1月30日、西郷村より、西郷村空家等対策審議会委員を委嘱された。
- 3月2日に、福島県建築設計協同組合より、伊達地方消防組合「中央消防署西分署改築工事基本設計業務」の設計競技審査員に浦部智義教授(委員長)と宮崎渉専任講師が委嘱された。
- 森山教授は3月3日、犬山市教育委員会より犬山城天守の防火対策について指導を依頼され意見書を提出した。
- 3月5日に、浦部智義教授と飯村萌さん(浦部研修了)が、郡山市との連携協定に基づいて実施した「文化施設の社会的便益評価に関する調査研究」の報告会を同市文化振興課で行った。
- 速水清孝教授は、3月6日、日本建築学会シンポジウム「東日本大震災10周年を機に頻発する複合災害を考える」、第一部:「5つのWGによるワークショップ」、WG5で東北支部を代表して発表した。
- 山田義文専任講師は、3月10日、国土交通省東北運輸局より、バリアフリープロモーターを委嘱された。
- 森山教授は3月18日、松本市教育委員会より旧松本高等学校および旧開智学校の防災計画等について指導を依頼され意見書を提出した。
- 市岡綾子専任講師は、3月22日、須賀川市より須賀川市南部地区(第2期)都市再生整備事業評価委員会委員を委嘱され、会長に選出された。
- 阿部杏華さん(浦部研4年)は、3月23日、公益社団法人日本建築家協会東北支部主催が主催する、JIA東北学生卒業設計コンクール2021において、作品名「木ごろも街道—流通がつくる街並み—」で最優秀賞を受賞し、JIA全国学生卒業設計コンクールに出展した。
- 浦部智義教授がキャンパス長を務める「かつらお復興キャンパス」の第4回大学連携会議が3月24日にオンラインにて開催された。
- 浦部智義教授と浦部研究室が関わった、福島ア

- トラス06「避難12市町村の10年環境世界の再生へ」が3月31日に発刊された。
- 齋藤俊克准教授は、4月1日、福島県よりうつくしま、エコリサイクル製品認定審査会委員を委嘱された。
- 山田義文専任講師は、4月9日、福島県建設設計協同組合より、福島県社会福祉事業団「福島県やまぶき荘(特別養護老人ホーム)建設設計業務」に係るプロポーザル審査委員を委嘱された。
- 4月12日に、福島県より、「(仮称)ふくしま農業人材育成センター施設整備」基本・実施設計業務の公募型プロポーザル審査委員に浦部智義教授(副委員長)が委嘱された。
- 森山修治教授は4月12日、文化庁より文化審議会専門委員(文化審議会文化財分科会第二専門調査会)を委嘱された。
- 森山修治教授は4月18日、名古屋より既存地下街の防災性能等向上方策検討有識者等懇談会の委員を委嘱された。
- 4月20日、日本建築学会東北支部・日本建築学会東北支部災害調査連絡会「令和3年2月13日の福島県沖の地震災害調査速報」に浅里和茂教授・日比野巧専任講師・堀川真之専任講師はWG2を、速水清孝教授はWG5の一部を執筆した。
- 廣田篤彦教授と廣田研究室は、4月21日と6月2日、西郷村新庁舎整備事業のワークショップに参加し、コーディネーターとファシリテーターを務めた。
- 浦部智義教授と浦部研究室が計画・設計に関わった、「Smart Wellness Town PEP MOTOMACHI「菊池医院」」で、日本ログハウス協会の2021年度建築コンテストで優秀賞(日本住宅・木材技術センター理事長賞)を受賞した。
- 奥山翔太君(浦部研M1)を代表とする浦部研有志が令和3年度森林自己学習支援事業に採択された。
- 浦部智義教授を代表、市岡綾子専任講師はかを分担者とする日本大学「産学官民の連携による「ロハスコミュニティ」の構築と実装」が、令和3年度大学等の復興知を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業に採択された。
- 市岡綾子専任講師は、5月18日、福島市より福

- 島市景観審議会委員を再委嘱された。
- 市岡綾子専任講師は、5月19日、環境省より令和3年度「脱炭素×復興まちづくり」FS委託業務に係る公募審査委員会委員を委嘱された。
- 森山修治教授は5月28日、福島県建築審査会会長として全国建築審査会協議会令和3年度第1回世話人会(WEB)に出席された。
- 速水清孝教授は、5月31日、「建築士法の成立と展開に関する一連の歴史的研究」で日本建築学会賞(論文)を受賞した。
- 市岡綾子専任講師は、6月1日、郡山市より郡山市文化財保護審議会委員を再委嘱された。
- 市岡綾子専任講師は、白河市より6月1日・10日、14日・22日、景観学習事業の講師を依頼された。また、市岡研究室を中心とした学生有志が児童の学習支援を行った。
- 市岡綾子専任講師は、6月14日、白河市より白河市複合施設基本設計検討委員会委員を委嘱され、会長に選出された。
- 市岡綾子専任講師は、6月25日、棚倉町より棚倉城跡整備基本計画策定委員会委員を委嘱された。
- 山田義文専任講師は、6月26日、日本福祉のまちづくり学会東北支部長(理事、支部代議員)に就任された。
- 浦部智義教授と浦部研究室が計画・設計に関わった、「Smart Wellness Town PEP MOTOMACHI「菊池医院」」で、日本ログハウス協会の2021年度建築コンテストで優秀賞(日本住宅・木材技術センター理事長賞)を受賞した。
- 奥山翔太君(浦部研M1)を代表とする浦部研有志が令和3年度森林自己学習支援事業に採択された。
- 浦部智義教授を代表、市岡綾子専任講師はかを分担者とする日本大学「産学官民の連携による「ロハスコミュニティ」の構築と実装」が、令和3年度大学等の復興知を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業に採択された。

### 教室ニュース

## 令和3年度 建築学教室教職員名簿

## 専任教員

教授	浅里和茂	鋼構造	16号館	1階	106	8734
教授	浦部智義	建築計画	45号館	3階	304	8743
教授	千葉正裕	構造力学	16号館	2階	204	8733
教授	濱田幸雄	建築環境工学	16号館	3階	310	8752
教授	速水清孝	近代建築史	9号館	3階	310	8872
教授	S.N.パリーク	建築材料学	9号館	1階	102	8747
教授	廣田篤彦	都市計画	9号館	3階	308	8749
教授	ブンタラS.G.	建築基礎構造	16号館	2階	206	8735
教授	森山修治	建築設備	16号館	3階	311	8751
特任教授	渡部和生	建築設計	45号館	3階	301	8750
准教授	齋藤俊克	建築材料学	9号館	1階	114	8740
准教授	野内英治	応用力学	16号館	2階	207	8744
専任講師	市岡綾子	建築計画	45号館	3階	305	8746
専任講師	日比野巧	構造力学	16号館	2階	205	8753
専任講師	堀川真之	鉄筋コンクリート構造	16号館	3階	106	8734
専任講師	宮崎涉	建築関連法規	45号館	2階	207	8742
専任講師	山岸吉弘	日本建築史	9号館	3階	309	8737
専任講師	山田義文	建築計画	45号館	2階	205	8741
助教	高橋岳志	インテリアデザイン	9号館	3階	310	8872

## 大学院

## 兼任教員・非常勤講師

非常勤講師	宇都宮雅人	建築職業倫理特論	16号館	3階	310	8752
非常勤講師	熊倉洋介	建築設計計画特別実習	45号館	3階	304	8743
非常勤講師	濱尾博文	建築構造設計特別実習	16号館	1階	106	8734
非常勤講師	米田正彦	建築職業倫理特論	16号館	3階	310	8752

## 学部

## 非常勤講師

非常勤講師	阿部直人	建築設計	45号館	3階	301	8750
非常勤講師	岡野春彦	建築施工I	16号館	2階	204	8733
非常勤講師	金谷祐昭	建築測量演習	9号館	1階	102	8747
非常勤講師	栗原隆	建築設計演習III	45号館	3階	301	8750
非常勤講師	佐久間宏一	建築設計演習I	45号館	3階	304	8743
非常勤講師	佐藤英次	建築設計	16号館	2階	207	8744
非常勤講師	佐藤好男	建築測量演習	9号館	1階	102	8747
非常勤講師	田中直樹	建築設計演習I	45号館	3階	301	8750
非常勤講師	田中雅美	建築設計演習III	16号館	3階	311	8751
非常勤講師	寺嶋守	建築設計演習III	45号館	3階	301	8750
非常勤講師	鍋田知宏	建築造形演習	45号館	3階	305	8746
非常勤講師	原澤一仁	建築設計	16号館	2階	207	8744
非常勤講師	檜山延雄	建築設計演習II	45号館	3階	301	8750
非常勤講師	平野由朗	建築設計演習IV	45号館	3階	304	8743
非常勤講師	藤倉祐介	建築材料実験	9号館	1階	102	8747
非常勤講師	松田知子	建築設計演習IV	9号館	3階	310	8872
非常勤講師	森田健一	建築施工II	16号館	2階	204	8733
非常勤講師	矢野英裕	建築設計	9号館	3階	310	8872
非常勤講師	渡邊宏	建築設計	45号館	3階	301	8750

## 事務局員

教室事務	小林まゆみ	建築学科センター	16号館	3階	309	8730
------	-------	----------	------	----	-----	------

[共通電話局番:024-956]

編集後記:本号は画期的な号となりました。これまでは白黒のモノクロ印刷でしたが、初めてフルカラー印刷を試みました。記事の内容はもちろんのことですが、より読みやすく親しみやすい紙面を目指しています。(山岸)

お願い:編集室までご意見・ご感想をお寄せください。  
ceb.soukon@nihon-u.ac.jp